

TSUNAN - Artful Living

～自然と暮らしが調和するまち～

日本一生き生きとした 津南をめざして

津南未来会議の提言書

先人から受け継いだジオを活かし
農業などの生業と子供たち・お年寄りを元気いっぱいにする
「つなん型ツーリズム」の確立

令和元年 10 月 8 日

津南未来会議

目次

提言の趣旨.....	1
提言その1：活動基盤の変革.....	2
住民が津南の現状や将来を考え、議論できる恒常的な場をつくる.....	2
住民に、地区の活動や学校行事、現状の課題などに関する情報の発信を丁寧に行う.....	2
住民や団体のバラバラな活動をつなげて、相乗効果を出す仕組みをつくる.....	3
提言その2：地域課題を克服する活動案.....	4
津南の大地や自然、文化、生業などの地域資源を生かすことで、よそとの交流を活発にし て、津南の農業や商工などの生業を活性化する。そして子供たちやお年寄りを元気いっぱい にする。.....	4
具体的な今後の活動イメージ.....	6
今後の進め方案.....	7
津南未来会議の概要.....	8
観光地域づくりを持続的に実践するきっかけと場づくり.....	8
未来と現状を正しく認識して解決策を考える.....	8
多様な主体が参加する平場の議論の場.....	8
全5回の議論の概要.....	9
各回の議論報告.....	10
第1回津南未来会議.....	10
【事前レポート】津南の未来を拓くために私が取り組むこと.....	10
【グループワーク】津南の未来を拓くために我々が取り組むこと.....	11
第2回津南未来会議.....	14
【事前レポート】10年後のあるべき姿を見すえたとき、現状の問題点は何か.....	14
【グループワーク1】現状の問題点を正しく把握.....	15

【グループワーク 2】 現状の問題点を深刻度で順位付け	16
第 3 回津南未来会議.....	18
【事前レポート】 現状の底辺に横たわる課題はなにか？	18
【グループワーク】 現状の底辺に横たわる課題はなにか？	19
津南町の 6 つの課題.....	21
第 4 回津南未来会議.....	23
【グループワーク 1】 課題 1, 2, 3 の活動案	23
【グループワーク 2】 課題 4, 5, 6 の活動案	25
課題 1, 2, 3 を克服するための活動案のまとめ	26
課題 4, 5, 6 を克服するための活動案のまとめ	27
第 5 回津南未来会議.....	29
5 つのテーマに分かれて、具体的な活動案について議論	29
【グループワーク 1】 具体的な活動案 その 1.....	30
【グループワーク 2】 具体的な活動案 その 2.....	31
津南未来会議 検討委員一覧(五十音順).....	33

提言の趣旨

日本一生き生きとした津南を目指そう！という町長のメッセージからはじまった津南未来会議。まずは津南のあるべき姿を話し合い、それに対して津南の現状とその奥底に横たわる課題を掘り下げました。そしてその課題を克服するための具体的な活動について話し合うという手順で進めました。大変熱心な議論が行われ、豊かで生き生きとしたまちづくりへの強い思いが伝わってきました。

異なる世代や業種の人が集まり議論することに最初は戸惑いがありましたが、話し合いを重ねるごとに一定の方向性が見えてきました。それは、津南の大地や自然、文化、生業などの地域資源を生かすことで、よそとの交流を活発にして、津南の農業や商工などの生業を、そして子供たちやお年寄りを元気にする。そんな津南の未来のために観光を活用して持続可能な地域づくりにつなげる（＝観光地域づくり）のが、「つなん型ツーリズム」です。そのために私たちが取り組むべきことを提言します。

提言は、ふたつの階層に分かれます。ひとつは、活動基盤そのものの変革です。津南の現状や将来を考えて議論できる恒常的な場をつくることや、バラバラな活動を横断的につなげ相乗効果を生み出す持続的な組織体制をつくることなどがこれにあたります。活動基盤そのものの変革によって、そこから生まれる活動の質が変わってくるのが期待されますので、先行してこれにあたるべきだと考えます。

ふたつめは、観光、農業、商工業、移住定住、教育などテーマごとの具体的な活動案です。これは活動基盤が整備された後も継続して議論していくべきことです。

社会が変化し、未来を明確に予測することが困難な時代では、確実なゴールや解決方法を最初から決めるのは困難です。まずは迅速に行動し、その後事業の進捗や住民の反応を見ながら柔軟に進めていくこと。その為にも従来以上のスピード感を持って課題に対応することが求められます。有効なのは小さくても早期に着手することで、議論や試行を繰り返し、成功体験を共有しながら、活動を広げていくというやり方が、いま求められる姿勢だろうと考えます。

提言その 1：活動基盤の変革

住民が津南の現状や将来を考え、議論できる恒常的な場をつくる

津南未来会議の継続と展開

多様な主体の課題・活動・情報・ノウハウを共有する場として、未来会議を定期的に継続。町民、企業、町が連携することで、新たなつながりや相乗効果を生む。個別・具体的な課題に応じて、テーマ別や集落別でも開催し、解決策について話し合う。事務局は、新設する観光地域づくり法人（DMO）が担う。

まちなかオープンスペースの開設

町中心部に、世代や業種を越えて住民同士が気楽に交流できる場所を設置する。また観光や移住などに関する情報を集約した案内所としても機能させて、住民と来訪者の交流の場とする。新設する観光地域づくり法人（DMO）が運営する。

住民に、地区の活動や学校行事、現状の課題などに関する情報の発信を丁寧に行う

町の広報紙や学校だよりなどの活用

学校行事や地域の祭りなど町内のさまざまな活動を紹介し、「生き生きとした津南」を見える化する。住民に対して情報をどのように伝えるかを見直し、津南病院の赤字問題などのネガティブな情報も率直に伝えることで危機感も共有。発信の主体は行政などの各機関、各種活動情報の共有・集約は未来会議にて行う。

情報を共有するための新しい媒体の検討

町内の様々な活動を住民自らが発信し、町内のコミュニケーションを活性化する。例えば SNS を活用して、個人の SNS で一斉に発信することで発信力を強化することもできる。ネットに親しんでいない住民に対しては、例えばコミュニティラジオのような新たな媒体も検討したい。観光地域づくり法人（DMO）が住民や団体と連携を取りながらコーディネートしていく。

住民や団体のバラバラな活動をつなげて、相乗効果を出す仕組みをつくる

観光地域づくり法人（DMO）の設立

日本一生き生きとした津南を目指す「つなん型ツーリズム」の軸となる民間主導、行政支援の新法人を設立する。住民や、観光だけではなく農林業や商工業などの団体のバラバラな活動を横断的につなぐ持続的な主体として、未来会議の事務局、まちなかオープンスペースの運営、情報の集約と国内外への一元的な発信を担う。新法人は、行政と協議した上でKPI（※）を策定、データに基づく検証を行い、その説明責任を負う。

統一したコンセプトに基づくブランディング

津南の本質を表す言葉（ブランドコンセプト）に基づいて、観光交流や移住定住に関する情報を集約、国内外に向けて一元的に発信・受入し、津南といえば〇〇というイメージを醸成する。

ブランドコンセプトに適い、多様な主体の相乗効果が見込め、経済的な利益や精神的な満足が広く分配される活動を優先的にサポートする。ブランディングは観光地域づくり法人（DMO）の最たる業務となる。

※KPI：KPIとはkey performance indicatorの略で、組織目標の達成度を評価するための主要な評価指標のことをいう。

提言その 2：地域課題を克服する活動案

津南の大地や自然、文化、生業などの地域資源を生かすことで、よそとの交流を活発にして、津南の農業や商工などの生業を活性化する。
そして子供たちやお年寄りを元気いっぱいにする。

1. 自然、伝統文化、生業など津南が持つ固有の魅力を価値化する
2. 従来型のスポット・イベント観光にとどまらずに、訪れたお客様に町全体を回遊していただき住民と触れ合う滞在交流型観光を実現する。併せて、訪れたお客様に、まちなかで心地よくお金を落とさせていただき仕組みや仕掛けをつくる
3. 農業、商工業、IT など様々な分野で津南にしかない質が高く、稼げる産業を確立する

上記の方向性のもと、観光、農業、商工業、移住定住、教育などのテーマごとに具体的な活動案をまとめました。これらについては、活動基盤が整備された後も継続的に議論することが必要であり、こうした活動の推進に関しては、観光地域づくり法人(DMO)が住民や農林業、商工業の団体などと連携して行うものとする。

付記：具体的な活動案

これまでの観光のあり方を見直す

現状は経済的な効果などの検証がなく、入込客数もあいまいなので、これを見直す。提案としては、「つなん型ツーリズム」にふさわしい基準を設定し、それに即して評価する。例えば、津南の顔（ブランドアイデンティティ、例として雪国・農業・アート・自然など）の設定、ターゲットの設定、町民参加などを基準として、その程度を評価する。

サイクルツーリズムを例にすると、農業や自然景観を満喫できること、ターゲットを外国人旅行者とする中で、子供たちのサイクリングクラブやお年寄りとの自然な交流など町民参加の機会も創出する、という風に基準をもとに磨き上げることで「つなん型ツーリズム」をカタチにしていく。

また津南の本質を表す言葉（コンセプト）を設定し、一貫した情報発信をすることも肝心である。コンセプトの一案として「豪雪のまち」と設定した場合、それを教育旅行、ヘルスツーリズム、サステナブルツーリズムなどへ展開。住民の雪に対するネガティブな意識を払拭し、ポジティブな価値を浸透させる取り組みも大事になるだろう。

稼げる農業を目指す

例えば、農業のテーマパークとして打ち出す。課題は人材、売り方、観光連携、スマート農業など。特に人材育成が大事になる。

商工業・商店街を活性化する

町中心部の国道沿いを元気にしたい。まずは商店街の空き家問題解決のために家主アンケートで意識調査をし、その上で情報を開示して担い手を探すという手順を進める。例えば地域づくりを学ぶ大学生に貸し出してビジネスモデルの実験場にす。予算は内閣府の小さな拠点づくり補助金などを活用する。

移住定住を増やす

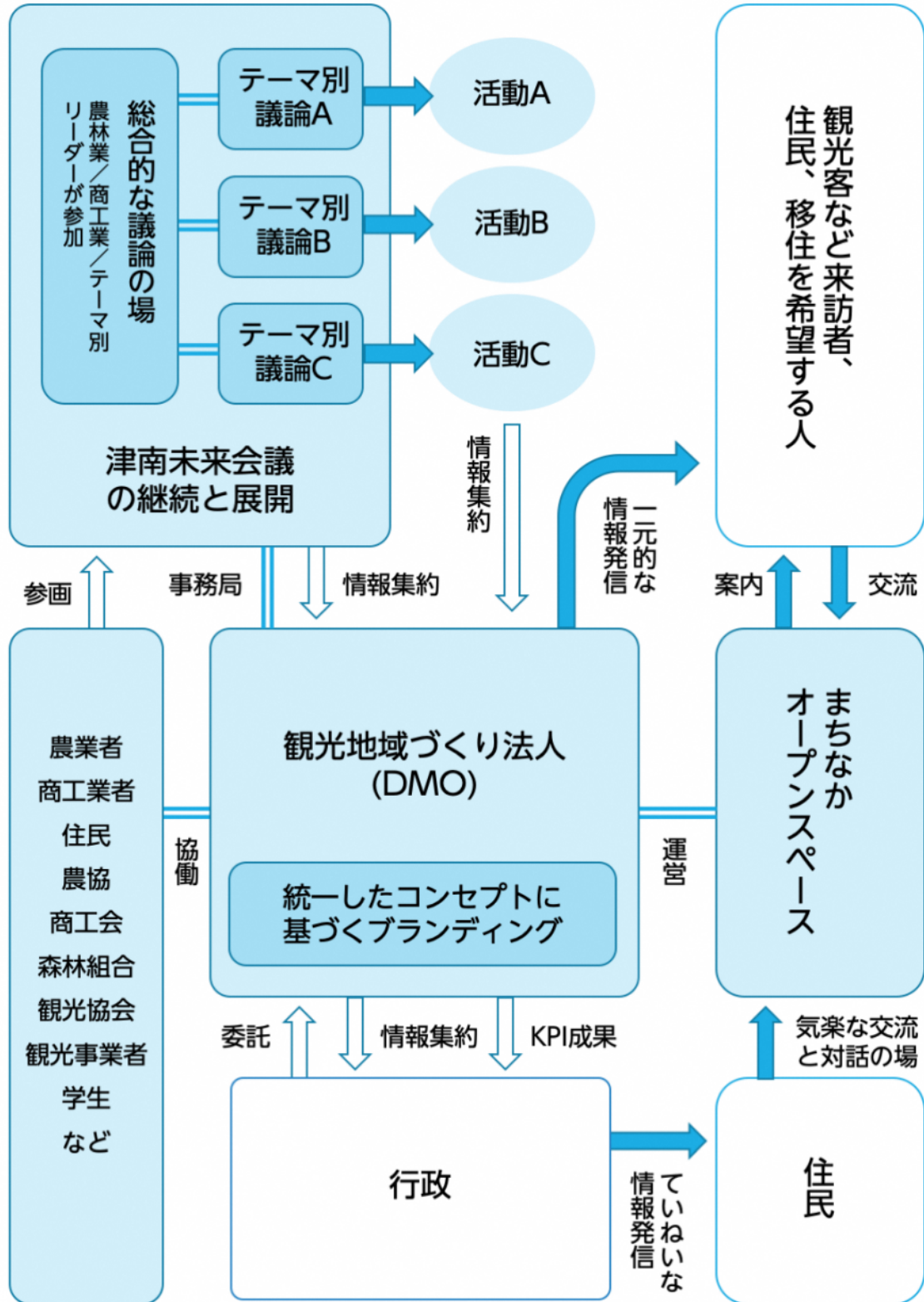
これまで移住定住施策は人事異動がある行政職員が担ってきたため継続一貫した対応が充分ではなかった。移住定住コンシェルジュを整備し、これを観光地域づくり法人（DMO）などに外部委託することで継続性のある施策とする。中でも移住者にとって家探しは大きな問題であるが、現状の空き家バンクはうまく機能していないため、あらためて空き家調査をした上で利用促進を図る必要がある。関係人口を増やす策として町外の津南サポーター登録なども一案である。

また、移住推進協議会のHPを移住者の目線を積極的に取り入れながら改善する。具体的には移住者のニーズに応じた空き家紹介、求人情報の充実、移住者紹介や地元住民のインタビューを増やしたり、空き家の周辺環境を紹介するなどして、どんな暮らしができるかイメージしやすくする等が考えられる。

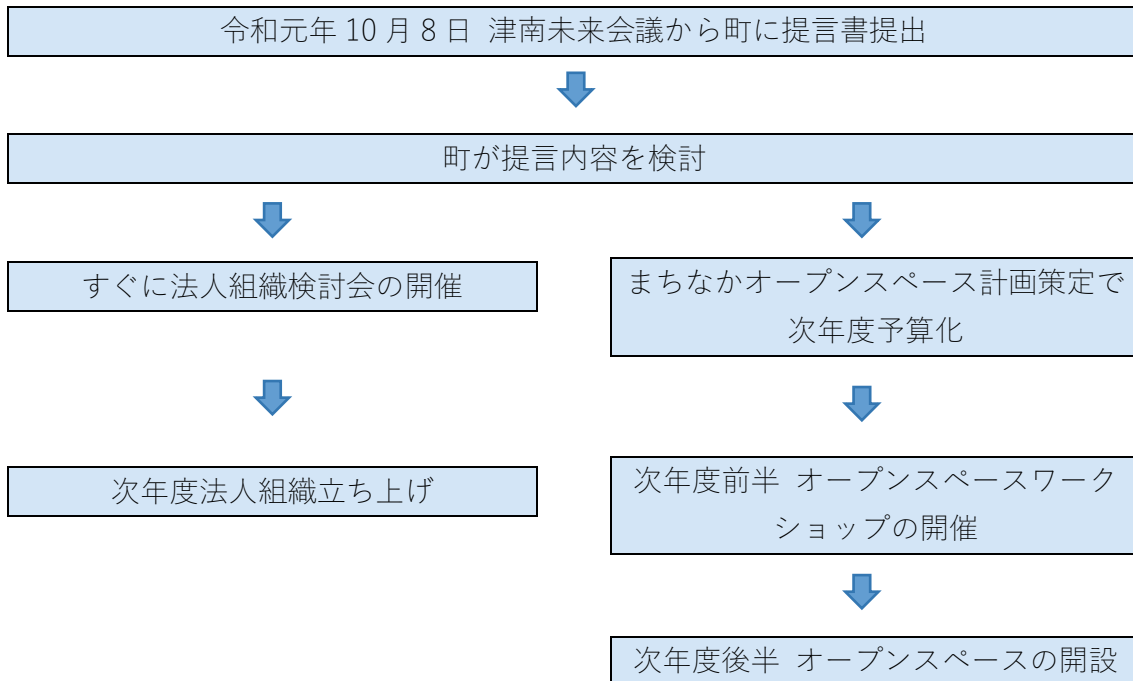
子どもたちの誇りを育む

子どもたちに津南の魅力を感じさせるために、学校現場で郷土教育活動が充実しており成果が出始めているので、これを継続する。津南の自然を活かして、子どもたちが自力で遊べる「そと遊び」の場所を整備する。安心安全な遊び場マップや自転車道を整備する等が考えられる。

具体的な今後の活動イメージ



今後の進め方案



津南未来会議の概要

参加者数：49名

5月28日 第1回：津南のあるべき未来を考える

6月18日 第2回：現状の問題点を洗い出す

7月17日 第3回：住民が皆で取り組むべき地域課題

8月21日 第4回：課題を克服するための活動案

9月25日 第5回：具体的な活動案

観光地域づくりを持続的に実践するきっかけと場づくり

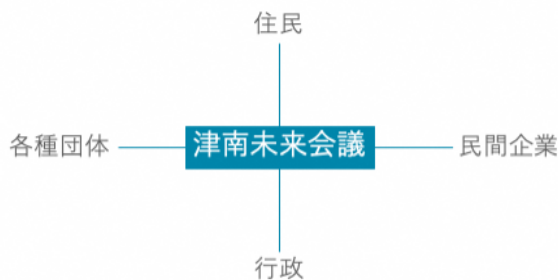
地域を元気にするために、住民の誇りである自然環境、歴史伝統文化、街並みなどを徹底的に活かしたよそとの交流（これを観光という）をもっと活発にして農林業、小売業、サービス業など地域の生業を一層元気にするとともにあらたな事業を興すことを考える（これを観光地域づくりという）

未来と現状を正しく認識して解決策を考える



津南町の“今”と“未来”を見据え、ギャップ=課題を共有し、解決策を“みんなで”考える

多様な主体が参加する平場の議論の場



多様な住民と団体、多様な官と民が、立場や年齢などの垣根を越えて平場で意見を交わす場

全 5 回の議論の概要

日本一生き生きとした町を目指す (桑原町長)

第1回

我々が
取り組むべきこと

キーワードは
つなぐ、交流する
未来を拓く
仲間と場づくり

教育・環境・産業
観光・食・ビジネスなど
お互いがつながる仕組みづくり

文化・お金・仕事など
津南の子供の未来を拓く

お互いに相談し議論し悩みを
解決しあえる仲間と場づくり

移住・仕事・産業・観光・
子供・お年寄り・の個別の課題を
うまくつないで解決できるのは
人と人の交流の場づくり

津南の宝物に気づき共有し
発信することを通して
人のつながりをつくり上げる

観光と農業とアクティビティ
などをつなぐ仕組みづくり

第2回

現状

キーワードは
危機感・当事者意識
+
仕事とお金

住民が津南の魅力
を知らない 危機感がない 働く場所が少ない 地元にお金が落ちない
行政依存 他者依存 楽しめる場が少ない 新規就農が少ない
次世代の
人づくり不十分 当事者意識が低い 交流人口が少ない 移住対策不十分
つながりがない 所得が低い割に 情報発信や 起業支援
生活費が高い ブランド弱い がない

住民のネガティブ思考・危機感
の欠如・地域の方向性が不明

稼げる地域づくりが不十分
仕事とお金

第3回

現状の奥底に
横たわる課題

課題

- 1 津南の現状や将来を考える機会や話し合う場がない
- 2 津南の現状を知ろうとしない地元津南に関心がない人がいる
- 3 活動がバラバラでせっかくのいい取り組みが繋がっていかない

課題

- 4 津南を豊かにする稼げる地域にする気構えが不十分
- 5 地域内でお金を落とす仕組みがない
- 6 自然環境や農業など津南が持つ固有の魅力を価値化する工夫と意欲が足りない

第4回 課題を克服するための活動案

住民が津南の現状や将来を考え、議論できる恒常的な場をつくる
住民に、地区の活動や学校行事、現状の課題などに関する情報の
発信を丁寧に行う

住民や団体のバラバラな活動をつなげて、相乗効果を出す仕組み
をつくる

活動基盤の変革
を先行すべき

- 津南未来会議の継続と展開
 - まちなかオープンスペースの開設
- 町の広報紙や学校だより、園だよりの活用
 - 情報を共有するための新しい媒体の検討
- 観光地域づくり法人 (DMO) の設立
 - 統一したコンセプトに基づくブランディング

第5回 具体的な活動案

津南の自然や伝統文化、生業など地域
資源を大事にして生かす活動によりよ
そとの交流・交易を活発にし、津南の
農業や商工、観光など産業を活性化す
るとともに、豊かで生き生きとした持
続可能な住民の質の高い暮らしを実現
する

具体的な活動については
継続的な議論が必要

テーマ別の検討

1. これまでの観光のあり方を見直す
2. 稼げる農業を目指す
3. 商工業・商店街を活性化する
4. 移住定住を増やす
5. こどもたちの誇りを育む

各回の議論報告

第1回津南未来会議

期日 令和元年5月28日
時間 19:00～22:30
会場 津南町役場 3階 大会議室
出席者 47名

津南未来会議は事前にレポートを提出していただき、それをもとに議論を進めていきます。

第一回では、参加者に「津南町の未来を拓くために私が取り組むこと」について、①私が目指す10年後の津南の姿、②その姿を実現するために私が取り組む活動、③その姿を実現するにあたって行政に期待することの3つの項目でレポートを提出していただきました。

会議の冒頭に、参加者の自己紹介も兼ねて、レポートを元に2分程度のスピーチをしてもらいました。その後、グループワークで「津南の未来を拓くために我々が取り組むこと」というテーマで議論をしました。

未来を拓くために取り組むキーワードとしては、「つなぐ、交流する」「未来を拓く」「仲間と場づくり」があげられます。

【事前レポート】津南の未来を拓くために私が取り組むこと

何に取り組むか

観光 (14)

持続可能な観光・津南ブランド確立・外国人来訪者増加・大地の芸術祭・苗場山麓ジオパーク・秋山郷・サイクリング・教育旅行・作家やボランティアと交流・お金を落とす仕組み・景観保全・アクセス向上

農業 (12)

津南ブランド農産品・スマート農業・農業体験・高齢者雇用・農家民泊

文化 (9)

苗場山麓ジオパーク・雪国文化・縄文・先人が繋いできたもの・縄文体験アトラクション
教育 (6) 苗場山麓ジオパーク活用・大地の芸術祭で国際交流・歴史文化を語れる人財育成・次世代を育成できる人財育成・学校同士の交流・妻有津南学・プレーパーク
移住 (7) 窓口のわかりやすさ・新しいライフスタイル発信・短期移住・空き家や空き店舗活用
商業 (8) 稼ぐ力をつける・起業支援・ブランド力向上・活気ある商店街・特産品販路拡大・ふるさと納税活用
自然 (9) 豊かな自然景観・森林セラピー・自然で遊ぶ
雪 (5)

対象は誰か

子どもが誇れる町 (12) 将来地元で活躍・地域コミュニティで遊ぶ・学校との連携促進
若者が住みたい町 (8) 子育ての安心・ビジネス創出
高齢者がイキイキ (5) 医療や介護の充実・在宅サービスの充実・観光ガイド雇用・若者や来訪者と交流

どのように取り組むか

情報発信力強化 (10) ファンを増やす・SNS・イメージ向上・写真活用・動画配信・勉強会開催
つながりづくり (4) 子どもと大人をつなげる場づくり・コミュニティを守る・リーダーがつながる・世代やライフスタイル別勉強会

【グループワーク】津南の未来を拓くために我々が取り組むこと

今ある資源・文化を知って活かすこと (40)

<p>津南に今あるものを知る・好きになる・活用する (12)</p> <p>お年寄りの知恵や縄文から続く文化を残す・伝える (9)</p> <p>美味しい農産物を活かす (5)</p> <p>雪を資源ととらえる (5)</p> <p>津南の日常を資源ととらえる (4)</p> <p>廃校や空き家の活用 (3)</p> <p>他に、交通の不便さを楽しむ・スキルバンクをつくる</p>
<p>新たなつながりをつくること</p> <p>町外とのつながり・観光の活性化 (24)</p> <p>来訪者が楽しめる・お金を落とす・仕組みやプログラムを用意する (8)</p> <p>移住者を受け入れる・窓口や語学学校の整備 (5)</p> <p>人に来てもらうための活動・案内所の整備 (4)</p> <p>大地の芸術祭の活用・作家や外国人来訪者と交流 (4)</p> <p>ひまわり畑やスカイランタンなどのイベント (2)</p> <p>他に、空き家修理の人手を町外から募集する</p> <p>町内の新しいつながりをつくること (11)</p> <p>既存のつながりにとらわれず新しい横のつながりをつくる (4)</p> <p>子どもと大人・高齢者・移住者のつながりをつくる (3)</p> <p>関心が合う人が集まりやすくする (2)</p> <p>移住者の声を聞く・伝える (2)</p>
<p>仕事をつくる・生業で稼ぐ (22)</p> <p>起業支援・女性の活躍できる仕事・冬の仕事をつくる (9)</p> <p>商店(街)の活性化 (3)</p> <p>所得向上 (3)</p> <p>津南のお金を津南で循環させる (2)</p> <p>人材育成 (2)</p> <p>農業の活性化 (2)</p> <p>他に、町外の人に仕事をまわす</p>
<p>誇りを育む・教育・子育てのこと (18)</p> <p>子どもが元気で外で楽しむ町 (7)</p> <p>子どもに津南の良さを伝える・津南を自慢できるように (4)</p> <p>大人が見本になる・楽しむ・雪にネガティブにならない (3)</p> <p>年寄りが元気な町 (2)</p> <p>他に、子どもたちに資産を残す、若者がふるさとに帰ってくる</p>
<p>津南を伝える・情報発信のこと (15)</p> <p>SNSを活用する (3)</p>

津南を全国へ発信する (3)

ファンを大切にする (2)

情報を蓄積する (2)

他に、ふるさとの良さ・普通のこと・ふるさと納税・アニメ・サイクリングマップや町歩きマップを発信する

第2回津南未来会議

期日 令和元年6月18日
時間 19:00～21:30
会場 津南町役場 3階 大会議室
出席者 44名

第二回は、津南の現状を正しく認識することを目的に議論しました。

津南の現状に対して感じる問題点は、それを解決することで「こうあって欲しい」と願う気持ちと表裏の関係です。現状をしっかりと捉えることは、取りも直さず未来を考えることにつながります。10年後のあるべき姿にむけて、現状の問題点をできるだけ具体的に認識することが肝心です。

現状が抽象的（例えば子供が少ない）ですと、課題も抽象的（例えば少子化が課題）となって、解決策も抽象的（少子化対策として移住の促進、婚活など）になります。

現状が具体的（例えば〇〇地区の中学生以下の子供は20人で、このまま推移すると10年後には10人を切る）ですと、課題も具体的（例えば、〇〇地区の住民の廃集落に対する危機意識が薄く、何でも行政頼み。子供たちも集落に対する誇りが欠如）になり、解決策も具体的（〇〇地区の10年後を考える集会を立ち上げ、危機感を共有するとともに解決策を自ら考え、提起する。行政は〇〇地区に都会の子供たちとの交流の場をつくり、そこに森の幼稚園や都会の学校の林間学校、全寮制の中高一貫校、アーティストインレジデンス、古民家滞在施設を誘致する。）になります。

議論の結果、共通する現状認識として「住民のネガティブ意識」「稼げる地域になっていない」という2つのポイントが浮かび上がってきました。

【事前レポート】10年後のあるべき姿を見すえたとき、現状の問題点は何か

- ① 住民自身が津南の魅力を認識していない
- ② 行政依存、他人依存、当事者意識の欠如
- ③ 人口減少。移住政策不十分、空き家対策不十分、働く場がない、お金が地元に残らない、新規就農者が少ない
- ④ 子供たちの遊び場がない、寄り道したくなる場がない、歩いて楽しめる場がない、つながりがない
- ⑤ 教育、高校がない

- ⑥ 観光が不十分、交流人口が少ない

【グループワーク1】現状の問題点を正しく把握

1班

商工業（特産物弱い、お金が落ちない、落とす場所）
人口減少（未婚者）
魅力（大人が知らない）
移住（空き家バンク、受け入れ意識、物価が高い）
子育て（外で遊べない、幼児の受け入れ）
除雪体制（3軒以上のところしかだめ）

2班

デジタル格差
子どもと教育（学校が変わっていない）
お金がない（所得、資金、財政）
ネガティブ思考
自転車（とんがらせたいという認識）

3班

意識（まちのイメージが良くない、大人が魅力を知らない、活性化への意識が低い、公共意識が低い）
インフラ（お金を出したくなる商店、空き家がない、遊ばせる場所公園、公共交通）
将来の方向性（一押し、指針）
子育てとお年寄りの居場所、発信

4班

少子高齢化（集落によっては半減、一人家族）
若者定住（高卒定着は1割、地元の事を知らなすぎる）
教育（地元企業とのマッチング、つながりが不足、稼ぐ意識）

世帯所得の向上（働き口、研究所誘致）
観光（資源の商品化、安売りしない、儲ける仕組み）

5 班

農（棚田の維持、宝物を残す、スマート農業）
かね（資金不足、行政頼み）
気持ち（変化を望まない）
観光（地元農産物を出せる飲食店がない、大地の芸術祭の10年後は）
人づくり（人口減少は必至、人材確保と人材をつなげること）

6 班

農林業（耕作放棄地、農作物の消費、人手不足）
住まい、観光施設（点在している施設をつなぐ工夫
あるものを活かしていない）
情報発信（津南はこういうまち）
すべて人手人材不足、10年後の危機感共有

【グループワーク 2】現状の問題点を深刻度で順位付け

1 班

仕事とお金（収入）がすべて
（売るものはいっぱいあるがビジネスにならない。起業する人もいっぱいいるがうまくいかない。お金を落とさせる仕組み。個でしか考えていない。地域として考えない町民意識を変える。消費単価を上げる工夫）

2 班

5つが根っこ深く密接につながっている
一番はネガティブ思考とお金（収入）
デジタル格差と自転車は個別に解決できる

3班

1. 意識（住民の活性化が必要だという危機感）
2. 将来の方向性（町の指針）
3. 子育て（今いる子供たちを大事に）
4. インフラ
5. 情報発信（全員に正確な情報を）

4班

1. 危機感の欠如、少子高齢化（集落がなくなる、インフラ維持困難）
2. 世帯所得の向上（自営業とサラリーマンの格差、意識を変える難しさ）
3. 教育（学校が変わっていない）
4. 若者の定住（つまらないまち）
5. 観光（そこそこできているがネットワーク少ない、商品化が薄い）

5班

1. ひと（人材育成急務）
2. おかねと気持ちはセット
3. 観光と農業

6班

1. 稼げる仕事が大変
2. 町の将来への危機感がない
3. あるものを活かしていない
4. 情報発信不足
5. 生活費が高い（除雪費など）

第3回津南未来会議

期日 令和元年7月17日
時間 19:00～21:30
会場 津南町役場 3階 大会議室
出席者 45名

第二回津南未来会議では、津南の現状について様々な意見がありました。中でも、参加者の多くが指摘したのは、「住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性不明」と「稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金」という2点でした。

そのような現状と向き合って、様々な当事者の立場になって、「なんでネガティブ思考なのか?」「なんで稼げないのか?」と具体的に考え、その奥底に横たわる課題を探ることによって、はじめて実効性のある解決策が生まれてくるのだろうと考えます。

第三回では、参加者に「2つの現状の奥底に横たわる課題は何か?」について事前レポートを提出いただきました。グループワークで課題を掘り下げて考えてもらいました。

その結果、津南町の6つの課題が浮かび上がってきました。

【事前レポート】現状の底辺に横たわる課題はなにか?

現状1：住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性が不明について

- 余裕がない、目の前のことで精いっぱい、忙しくて無理だという言い訳
- なんとなくこなせている、自分の代は大丈夫、問題に気付いても行動しない、出る杭を打つ、そもそもネガティブだと思っていない、豪雪を除いてもプラスが多い、ネガティブをチャンスととらえる発想が必要
- 津南だから駄目だというあきらめ、津南の地域性
- 自地域に興味がない、外の世界を知らない、外との交流がない、外貨を入れていく発想が希薄、外から力を受け入れる下地作り・子育て世代を受け入れる下地作りが重要、よそ者ばか者若者を受け入れる意識が希薄、
- 親や年寄りの意識が問題
- 将来を考える機会がない、場がない、情報がない、未来が見えない
- 意見を言う場がない、異なる世代や業種の人と意見交換の場がない、正式な場になるとモノが言えない、言ってもつぶされる、悪い話ばかり伝播する

- 活動がバラバラ、いい取り組みが繋がらない、全体がつながる仕組みがない、町全体をマネージする仕組みまとめる組織がない、リーダーがない、町全体のブランディングが不可欠

稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金について

- 稼ぐ気構えがない、稼ぎ方を知らない、稼ぐのをあきらめている、稼ぐビジネスモデルがない、経済効果のデータがない、行政や商工会の取り組みに対する結果説明がない、新しいビジネスについて無知、企業誘致に不熱心
- 地域内でお金を落とす仕組みがない、顧客のニーズ把握など店主のビジネス意識が低い、農業などの付加価値が生み出されない、質がカギ、地元の企業を知ろうとしない、JAに出してももうからない、
- 津南が持つ魅力を価値化する必要、津南が持つ力に気が付いていない、自然環境だけで稼げると思っている、日本一の豪雪を売りに変えていく、このような意欲を持った人材が必要
- 失敗しても次があるというポジティブな発想がない
- 除雪や家賃などコストがかかる
- 金儲けに遠慮する風潮、否定的、将来不安が先決、儲けるというのは津南のファン信者を増やすことだと認識していない、
- 売価が低く抑えられている、低い公共施設料金が足を引っ張っている、だから賃金も低い
- 行政の役割が不明確、副業を勧め地域と一緒に動いてもらう

【グループワーク】現状の底辺に横たわる課題はなにか？

1 班

①住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性が不明について

親、仕事など不安定など4点、根底には出る杭を打つ気質

②稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金について

お金を生む手段がない現状に満足、外からの新しい力を取り入れることが必要、そのために子育て世代を受け入れる環境を作る必要

2 班

①住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性が不明について

現状維持、根底には意見を言ってもつぶされる、発言するとやらされる雰囲気

②稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金について

顧客のニーズ把握など店主の商売意識希薄、住民が地域内で消費する仕組み、カネもうけに対する遠慮意識、ビジネスの知識教育がないのでお金の使い方を知らない

3 班

①住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性が不明について

負のスパイラル連鎖、問題を気付いても行動に移さない、何となく暮らせる

②稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金について

農産物にお金を付けることを卑しむ、成功事例がない

どれもなづける、一つにまとめるのが大変、1 点に絞っていろいろ考えるということ
ことでネガティブをチャンスととらえる人を応援する、出る杭を打たない、人材を育成する

4 班

①住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性が不明について

忙しくて無理だという言い訳、津南だからというあきらめ、無関心、まだ大丈夫だという意識、大事なことを隠しているという疑心暗鬼、10 年後を考える機会がない、病院問題など本当の危機を論じない、リーダーが語る方向性が必要。

②稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金について

稼ぐ気構え、自信をもって、儲けるは信者と描く、津南を好きな信者を増やすのだ！教育委員会のせいか「なじょもん」の体験が安すぎる、観光協会の HP の日々の更新が大事、行政の副業の勧めをもっと

5 班

①住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性が不明について

情報がないから（津南病院赤字問題）意識がない、意識があってもあきらめていく、ちゃんとした会議では発言しない

②稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金について

津南の価値を知らなすぎる（例豪雪の活用）

6 班

①住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性が不明について

とりあえず豊か、地域性津南特有の考え方（出る杭は打たれる、皆の前では言いたくない、外貨を入れていく

②稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金について

仕事とお金については人によって価値観が違うので意見がまとまらなかった、稼げる地域づくりのためには付加価値づくり、町全体のブランディングが必要、町全体をまとめる組織が必要

津南町の6つの課題

1. 津南の現状や将来を考える機会や話し合う場がない

現状についての情報もない

異なる世代や業種の人と意見交換の場がない／問題に気付いても行動しないし、行動できない／出る杭は打たれる雰囲気がある、意見を言ってもつぶされる／正式な場になるとモノが言えない雰囲気がある／行政の役割が不明確、地域と一緒に動いてもらう必要がある／津南病院の赤字問題などが情報として住民に伝わらない／住民も目の前のことで忙しく精いっぱい将来を考える余裕がないと言い訳しがち／日々なんとなくこなせていて、自分の代は大丈夫という意識の大人が多い

2. 津南の現状を知ろうとしない、地元津南に関心がない人がいる

現状に満足し、危機感を持っていない人がいる／外の世界を知らない、外との交流がないから自地域の課題もつかめない／外から力や人材を受け入れる下地／子育て世代を受け入れる下地が十分でないことに気づいていない／津南を元気にするために「よそ者ばか者若者」を受け入れる意識が希薄

3. 活動がバラバラでせっきくのいい取り組みがつながっていない

まち全体がつながる仕組みがない／まち全体をマネジメントする仕組みやまとめる組織がない／まち全体の方向性を語り、まとめるリーダーがない／まち全体のブランディングという発想がない／統一したPRや情報発信ができていない

4. 津南を豊かにする、稼げる地域にする気構えが不十分

稼ぎ方を知らない、稼ぐのをあきらめている／稼ぐビジネスモデルがない／経済効果に関するデータがない、行政や商工会の取り組みに対する結果説明がない／新しいビジネスについて関心がない、企業誘致に消極的／優良企業や成功事例が共有できて

いない／失敗しても次があるというポジティブな発想がない／金儲けが悪いことという風潮がある、儲けるというのは津南のファン信者を増やすことだと認識していない／売価が低く抑えられている、低い公共施設料金が足を引っ張っている、結果的にそれが賃金を抑えている

5. 地域内でお金を落とす仕組みがない

顧客のニーズ把握など店主のビジネス意識が低い／農業などの付加価値が生み出されない、出荷しても利益が出ない／質を上げて単価を上げる工夫が足りない／地元の企業を知ろうとしない／業種を越えて連携する仕組みがない

6. 自然環境や農業など津南が持つ固有の魅力を価値化する工夫と意欲が足りない

津南が持つ力、魅力に気が付いていない／自然環境だけで稼げると思っている、日本一の豪雪を売りに変えていく発想がない／このような意欲を持った人材がすくない／ネガティブをチャンスととらえる発想がない

第 4 回津南未来会議

期日 令和元年 8 月 21 日
時間 19:00～21:30
会場 津南町役場 3 階 大会議室
出席者 40 名

第三回までの議論で 6 つの課題が明らかになりました。第四回ではこの 6 つの課題を大きく二つに分けてグループワークで議論をしてもらいました。

1 回目のグループワークでは、課題 1「津南の現状や将来を考える機会や話し合う場がない、現状についての情報もない」課題 2「津南の現状を知ろうとしない、地元津南に関心がない人がいる」課題 3「活動がバラバラでせっかくのいい取り組みが繋がっていかない」という 3 つの課題について議論をしました。その結果、課題を解決するための活動の方向性については、相当明確になりました。

2 回目のグループワークでは、課題 4「津南を豊かにする、稼げる地域にする気構えが不十分」課題 5「地域内でお金を落とす仕組みがない」課題 6「自然環境や農業など津南が持つ固有の魅力を価値化する工夫と意欲が足りない」という 3 つの課題について議論をしました。この 3 つの課題については、本来、DMO などの組織体制ができてから事務局のリードの元に議論すればよいものですが、トレーニングを兼ねて今回議論をしていただきました。しかし抽象的・精神的な中身にとどまっており、もっと具体的な活動案が必要だと考えます。

【グループワーク 1】課題 1, 2, 3 の活動案

課題 1：津南の現状や将来を考える機会や話し合う場がない、現状についての情報もない

課題 2：津南の現状を知ろうとしない地元津南に関心がない人がいる

課題 3：活動がバラバラでせっかくのいい取り組みが繋がっていかない

1 班

課題 1：情報発信共有、それぞれの領域ごとの仲間づくり

課題 2：やる気のある人を中心に進める、次の世代に何を残すかを考える

課題 3：町全体がつながる仕組みをつくる、例えば町全体がつながるモデルコースづくり・・・

<個人追加>町長や職員、会議メンバーが一斉に SNS で「津南やばい」と発信する

2 班

課題 1：未来会議継続、もっと工夫、出向いていく、井戸端会議のように様々な場づくり

課題 2：発信、全国 1 を発信、WEB で広報誌解説など、森の幼稚園などの場づくり

課題 3：DMO が核、役場商工会ではなく市民有志で

3 班

課題 1,2,3：未来会議を地域ごと団体ごとに継続、普段から家族でも集落でもこういう話し合いの場個人情報共有の場を。まとめる人が課題だが場が必要。広報無線の活用（学校行事、祭り情報など）広報紙の活用（クーポン券付き）津南病院赤字などマイナス情報も

4 班

課題 1：未来会議の継続、2 期生 3 期生を、横展開して集落単位業種単位でも、気楽に集まれる場所だれでも気楽に参加できる場所、役所 JA 観光協会がそろった未来会議

課題 2：広報津南の活用、学校だより園だよりの活用、FM 津南の開設、近隣自治体との勉強会インターン体験、都会との交流

課題 3：情報の集約一元化、活動している者同士の飲み会、事業者交流会、つながる HP（全町各地域の活動紹介）、津南人図鑑をつくる、つなげる組織が一番の課題

5 班

課題 1：定期的な場、未来会議を定期的に、オープンバー、誰もが参加できる公の場、現状の情報を町長の口から、広報津南で赤字問題を継続的に

課題 2：津南を守ることが重要だと認識、町民に関心を持たせ町外の人を受け入れる、教育の場を活用、稼げる副業をつくる

課題 3：強い組織を作ればいろいろと波及する（FM もできるようになるし、稼げるようになる）

6班

課題1,2,3：場づくり=未来会議継続、部会制（ふるさと納税の部会等）の工夫、様々な業種世代間交流のための気楽なスペース、人材育成の場=若い人の教育、英語発信、地元企業の研修会、情報発信=SNS、アンケート、トップの発信、会議の実況中継、データ提示

【グループワーク2】課題4,5,6の活動案

課題4：津南を豊かにする、稼げる地域にする気構えが不十分

課題5：地域内でお金を落とす仕組みがない

課題6：自然環境や農業など津南が持つ固有の魅力を価値化する工夫と意欲が足りない

1班

課題4：街の顔を作る（国道沿いのメインの通り）

課題5：企業誘致、クーポン

課題6：アラブに雪を売る、農産物生産情報提供、観光協会や地域振興課は人材公募

2班

ターゲットを絞る、環境にやさしい街ということでお金持ちに焦点、プラ削減など、川の活用、農業・兼業農家を支える仕組み、農産物をWEB販売、経済研究所コンサル会社をつくる、宿泊した人に駐車券付与・飲食券付与、終活の場としての受け皿づくり

3班

まずは自己満足で、安売りしないように付加価値を、業種を超えて連携（焼き芋の上にソフトクリーム）、皆で考える、まず地域資源の情報収集、普段の日常の暮らしを届けるための地元の人との交流

4 班

日本一の豪雪地帯を売る、ターゲットを絞る、自然を都会の人に体験してもらう、民泊してもらう、都会の人の受け入れ

5 班

外部講師に学ぶ、楽しいあそび道具をつくる、津南のイメージが膨らむ HP づくり、まずはイメージづくり

6 班

津南ブランド津南プライドづくり、成功モデルを波及させる、企業補助新規事業応援、食と農業（加工品や水との連携、PR、津南牛乳のブランド化など）雪がキーワード

課題 1, 2, 3 を克服するための活動案のまとめ

1. 住民が津南の現状や将来を考え、議論できる恒常的な場をつくる

- 未来会議の継続と定期化と集落単位やテーマ単位などの横展開
- まちなかオープンスペースなど世代間業種間交流が気楽にできる場の開設

2. 住民に、地区の活動や学校行事、現状の課題などに関する情報の発信を丁寧に行う

- 町の広報誌、広報無線、学校だより、園だよりの利活用、
- 発信内容については学校行事や地域の祭りなど町内の様々な活動、病院の赤字問題などマイナス情報、津南の誇りある地域資源情報、統計などのデータ情報などを網羅、クーポン付きで読んでもらう工夫、データ提示）、
- FM 津南の開設、
- 一斉に SNS 発信することで迫力を増す
- 近隣自治体や都会との交流を通して、わが町を知る

3. 住民や団体のバラバラな活動をつなげて、相乗効果を出す仕組みをつくる

- 町全体がつながる仕組み（例、まち全体のモデルコースづくり）、各種情報の集約とつながる HP による一元的な発信、津南人名鑑による人のつながりづくり、事業者間の交流促進、
- そのための住民や民間主導、行政支援の観光地域づくり法人（日本版 DMO）の構築
- 町全体をまとめるリーダーの確保と活動の担い手人材の育成
- 観光地域づくり法人（日本版 DMO）や行政の地域振興セクションの人材を公募

課題 4, 5, 6 を克服するための活動案のまとめ

4. 津南の自然や伝統文化、生業など地域資源を大事にして生かす活動によりよそとの交流・交易を活発にし、津南の農業や商工、観光など産業を活性化するとともに、豊かで生き生きとした持続可能な住民の質の高い暮らしを実現する
-

① 自然、伝統文化、生業など津南が持つ固有の魅力を価値化する

- 津南が持つ固有の魅力のリストアップと新たな発掘
- 津南ブランド、津南プライドの構築と発信
- 町の顔をつくる（国道沿いのメイン通りのイメージアップ）
- 環境立町により町のイメージをアップするとともに視察などを誘致
- 業種を超えて連携し、新たな商品をつくる（焼き芋にソフトクリームの事例あり）
- 日本一の豪雪地帯を商品化する

- ② 従来型のスポット・イベント観光にとどまらずに、訪れたお客様に町全体を回遊していただき住民と触れ合う滞在交流型観光を実現する。併せて、訪れたお客様に、まちなかで心地よくお金を落とすとしていただく仕組みや仕掛けをつくる

- 農産物の生産情報を発信、WEB 販売や直売場のネットワーク構築
- 消費単価が低いお客様ではなく、富裕層にターゲットを絞る
- 津南の自然環境やジオを体感できる滞在プログラムを造成して販売
- 町全体を回遊するモデルコース、ウォーキングコース、サイクリングコースを整備
- 町全体を自転車で楽しめるサイクルツーリズム

- 民泊の拡大
- 団体によりバラバラの作成しているマップやパンフレットを一元化する
- 町内に宿泊したお客様に駐車券やお買物券、飲食券を付与

③ 農業、商工業、IT など様々な分野で津南にしかない質が高く、稼げる産業
を確立する

- IT など新規の企業を誘致
- ふるさと納税を通して産業基盤を強化する
- 経済研究所やコンサル会社を誘致、部外講師を招いた勉強会
- 新規事業の支援と成功モデルの展開

第 5 回津南未来会議

期日 令和元年 9 月 25 日
時間 19:00～21:30
会場 津南町役場 3 階 大会議室
出席者 40 名

津南未来会議の最終回。大変熱心な議論が行われ、豊かで生き生きとしたまちづくりへの思いがいかに強いかが、伝わってきました。町長や一部の人が言うのではなく、町民自らが議論したことで今後の活動の方向性が明確になりました。

議論の成果は、ふたつの階層に分けられます。ひとつは、活動基盤そのものの変革です。津南の現状や将来を考えて議論できる恒常的な場をつくることや、バラバラな活動を横断的につなげ相乗効果を生み出す持続的な組織体制をつくることなどがこれにあたります。活動基盤そのものの変革によって、そこから生まれる活動の質が変わってくるのが期待されますので、先行してこれにあたるべきだと考えます。

ふたつめは、具体的な活動案です。今回は参加者に 5 つのテーマからひとつを選択してもらい、議論を深めてもらいました。これは今後観光地域づくり法人（DMO）ができて継続していく議論です。ポイントは当事者として具体的に提起し、自ら行動すること。具体論は、地域外の人間にわかるはずもなく、住民が自ら提案するしかありません。

町長からは、「皆で話すことがよいということがよくわかった。たくさんアイデアをもらったので、実行力が問われている。皆さんが実行できるように支えたい。この日を実行のスタートにしたい」という言葉をいただきました。

5 つのテーマに分かれて、具体的な活動案について議論

活動の方向性

津南の自然や伝統文化、生業など地域資源を大事にして生かす活動によりよそとの交流・交易を活発にし、津南の農業や商工、観光など産業を活性化するとともに、豊かで生き生きとした持続可能な住民の質の高い暮らしを実現する

5 つのテーマ

テーマ 1：これまでの観光のあり方を見直す[リーダー：山岸麗好、デイブ・パドック]

テーマ2：稼げる農業を目指す[リーダー：島田福德]

テーマ3：商工業・商店街を活性化[リーダー：福原香]

テーマ4：移住定住を増やす[リーダー：諸岡江美子]

テーマ5：子どもたちの誇りを育む[リーダー：佐藤信之]

【グループワーク1】具体的な活動案 その1

1-1 これまでの観光のあり方を見直すチーム

ありのままの津南をストーリーで発信し、実感させるために、自然葬事業・ふるさと納税活用・ジオ教育旅行・環境先進地津南・農業一年体験・病んでる人の治癒・自転車ツーリズム・デトックスなどマニアックな体験プランを提供。

1-2 これまでの観光のあり方を見直すチーム

これからの観光のフレームワークを議論した。ブランドアイデンティティを明確化（雪国、農家、アート、自然）ターゲット明確化（どこの国どんな層）町民参加基本（町民が一緒に楽しむ）

2 稼げる農業を目指すチーム

新潟にはTFLがある。津南ファームランド。農業の一大テーマパーク、農家はベントに乗っている。

3 商工業・商店街を活性化するチーム

商店街の空き家問題解決のために家主アンケート意識調査、担い手を探す、地域づくりを学ぶ大学生に貸し出して新たなビジネスモデルの実験場にする

4 移住定住を増やすチーム

行政は縦割りなので移住定住窓口コンシェルジュを整備外部委託（サイト、セミナー）空き家利用促進（空き家調査、空き家バンクは機能していない、専門家を置く）地域おこし協力隊のサポート、関係人口を増やす（電子住民の登録）

5 子どもたちの誇りを育むチーム

子どもたちに津南の魅力を感じさせるために、学校現場で引き続き活動。子供たちが自力で遊び動ける外遊び場の整備、安全安心な自転車道整備

【グループワーク2】具体的な活動案 その2

1-1 これまでの観光のあり方を見直すチーム

豪雪の街だということを前面に！これに絞る！雪国に育まれた暮らしを豪雪の街だということでブラッシュアップする。豪雪はすごいことだということを町民にどう浸透させるか？

1-2 これまでの観光のあり方を見直すチーム

自転車という切り口で。ターゲット？（インバウンド、お金を落としてくれる人）町民参加？（子供たちのサイクリングクラブ、お年寄りが声をかけるように）自販機マップとトイレマップは必須

2 稼げる農業を目指すチーム

人材売り方観光スマート農業、特に人材、紹介などのうまいつながりができれば経済がもっと活性化

3 商工業・商店街を活性化するチーム

国道沿いが閑散としているのはどうか、大学生に話をするのに窓口が必要、これがDMO。予算は小さな拠点の補助金など活用

4 移住定住を増やすチーム

移住定住協議会のサイト充実（移住者のニーズに合わせた空き家紹介、求人情報による仕事あっせん、学生の一時的滞在箇所を提供、まちのHPに広告、移住者の紹介をもっと、地元の暮らしのインタビューをもっと、学校へのアプローチ）

5 子どもたちの誇りを育むチーム

子どもが地元が好きになるためには、まず親が津南を好きになり、楽しむこと。

津南未来会議 検討委員一覧(五十音順)

阿部 哲也	阿部 正樹	石田 裕一
今井 美津代	江村 大輔	尾池 紀一
大倉 梨恵	太島 吉秋	岡村 昌幸
小野塚 克幸	風巻 あづみ	風巻 里咲
風巻 領	金井 彩香	久保田 等
グリフィス 恵	釵持 修	小島 翔
小島 知佳	小島 司	小島 裕輔
粉川 英明	小林 幸一	小林 善仁
小山 清司	小山 尚之	佐藤 信之
島田 福德	藺部 昌代	高波 知佳
高橋 一志	滝沢 了	筒井 秀樹
デイブ パドック	仲野 浩平	早河 史恵
廣川 千紘	福原 香	福原 雅浩
藤木 勉	松井 市子	丸山 哲史
宮崎 綾子	村山 大成	諸岡 江美子
谷内田 裕	柳澤 佐恵子	山岸 麗好
渡邊 泰成		

コーディネーター：フジノ ケン

顧問：清水 慎一

事務局：津南町地域振興課 DMO 推進室 石沢 久和 高橋 秀幸

以上

